

IEA 石油市場レポートの概要（2017年2月10日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 2016年の世界の石油需要の見通しは、第4四半期の力強い数値を受け、3ヶ月連続となる上方改訂がなされ、160万バレル/日上昇した。2017年の需要の伸びは140万バレル/日に減速すると依然予想されるが、最近の産業活動の改善は支援材料となっている。
2. 今年1月の世界の石油供給は、OPEC加盟国・非加盟国による生産減により150万バレル/日近く減少した。世界の原油生産量は9,640万バレル/日と、昨年より73万バレル/日少なくなった（OPEC加盟国は、2015年以来初めて前年同時期比での減少）。
3. 1月のOPEC加盟国の原油生産は100万バレル/日減少し、3,206万バレル/日となり、減産協定に対して90%の遵守を記録することになった。サウジアラビアなどの生産国は、協定で供給された以上の減産を実施した。この減産分は、リビヤやナイジェリアといった減産を免除された生産者からの増産で部分的に打ち消された。
4. OPEC非加盟国からの供給は、2016年に80万バレル/日減少した後、2017年に40万バレル/日増加するだろう。これは主にアメリカ大陸内での増加となるだろう（高くなった油価が米国の軽質タイトオイルへの投資増加を加速し、ブラジルやカナダでは長期プロジェクトの生産が開始される）。
5. 2016年第4四半期のOECD加盟国の石油在庫は、過去3年で最大となる一日あたり80万バレル近くの減少となった。12月末の在庫は、2015年12月以来となる30億バレルを下回る水準。中国や他の新興国では引き続き在庫が積み上がり、洋上在庫量も増加した。
6. 期近のブレント先物価格は、トレーダーがOPEC加盟国の減産を待ち受けていた1月に0.59ドルの控えめな上昇により、55.51ドル/バレルとなった。ブレントのコンタンゴは縮小し、硫黄分の高い原油の指標であるドバイはブレントやWTIに対して上昇を続けた。ガソリンやLPG、ナフサ分解は増加した。
7. 2016年第4四半期の石油精製量は、石油製品のより確かな需要により増加し、前年同期比で83万バレル/日増加している（第3四半期の16万バレル/日の控えめな増加の後に）。これにより、2016年通年として46.5万バレル/日の増加となった。2017年の第1四半期の石油精製量は、前年同期比で20万バレル/日の成長が予想される。